

# 防災だより 2021 年5月号

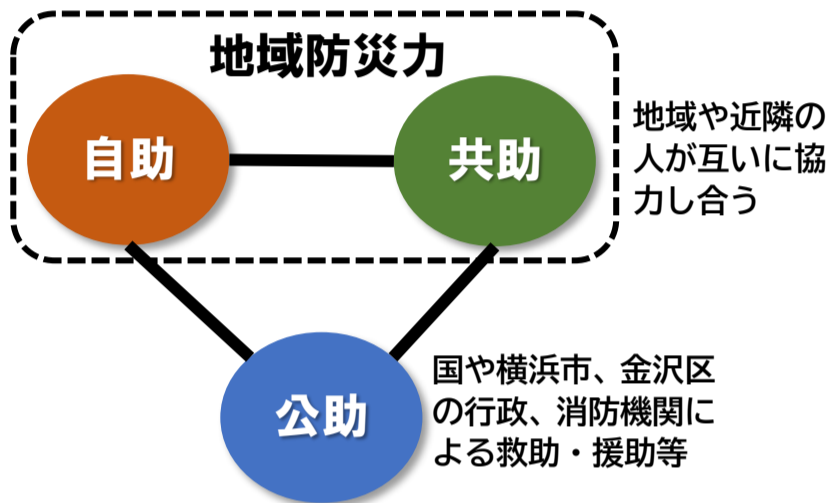
第 32 号  
 令和3年5月31日発行 関ヶ谷自治会 防災部/防災ボランティアグループ  
 ☆防火チーム☆情報・通信・電気チーム☆食料・物資チーム☆医療・介護チーム ☆防災資機材取扱チーム 自治会館 ☎784-4447

## 2021 年度 地域防災に臨むにあたって

自治会会長 影山 俊郎

関ヶ谷では年 2 回の安否確認&避難訓練を行っています。関ヶ谷地域は高齢者が多いため、各訓練の焦点を「高齢者を如何に守るか」という視点で行う必要と考えます。その面からも高齢者がどうやって生き延びるか、関ヶ谷住民の連帯感をもって、共助、「向こう三軒両隣」の助け合いは絶対必要です。

自治会としては、昨年来コロナ過で恒例の伝統イベントはできませんが、防災 V G の皆さんの支援を得つつ、「自助力強化」と隣近所の助け合いで守っていけるように、災害から生き延びる訓練を強化していきたいと思っています。被害を減らすには自助・共助が基本だと思っています。



今年は関ヶ谷自治会が地域防災拠点運営幹事自治会となります。夏山町内会、山の手自治会の三者で二年ごとに順番に担当しています。西金沢学園が地域避難場所になっており、今年は新型コロナの状況をみつつ可能であれば学園を借りて、三自治会共同で防災訓練を行う予定です。

最後に非会員の方をお願いします。この機会に自治会に加入し助け合いの輪の中に入って頂きたいです。また元気な方は防災 V G 活動に参加いただき連帯意識を高めることを期待しています。

## 2021 年度 防災担当役員 ご挨拶

防災担当役員 中野 弘子

2021 年度自治会副会長で防災・防犯を担当することになりました、中野弘子です。

コロナ禍の中、自分に何が出来るかとても不安ですが、知識のない私がお役目をおおせつかり防災知識や高齢者の支援の在り方などを勉強している次第です。

いたりませんが防災部や関係者の人達の力をお借りしながら、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願い致します。



## 2021 年度前期 防災部長 ご挨拶

防災部長 池本 雄次

2021 年度前期の自治会防災部長になりました池本（9 地区）です。防災 V G のご指導や皆様のご協力を得て防災活動の活性化を進める所存です。

「一寸先は闇」、何処で地震が起こるかは分かりません。しかし常日頃の訓練により体に染みついた行動があれば安全を確保することは可能です。まず身の安全を守り、避難経路を確保し、火を消す行動がスムーズにできるかどうか成否のカギを握ります。安否確認のタオルを出すのはそれからです。ご近所の協力も大切です。コロナ禍での活動となりますが、どうぞ宜しくお願い致します。



警戒レベル	いままで	5月20日～
5	災害発生情報	緊急安全確保 (命を守る行動)
4	避難指示(緊急) 避難勧告	避難指示 (全員避難)
3	避難準備 高齢者等避難開始	高齢者等避難 (高齢者等は避難)
2	大雨・洪水・高潮 注意報	大雨・洪水・高潮 注意報 (避難方法の確認)
1	早期注意情報	早期注意情報 (心構えを高める)

## 避難情報が新しくなりました

大雨などで災害が発生する恐れがある場合、これからは「避難勧告」ではなく左図のとおり「避難指示」に一本化されます。この「**避難指示**」が出されるまでに**避難を完了**することが必要とされています。災害対策基本法が改正され、**レベル5・4・3が変更**されています。

《警戒レベルと我々のとるべき行動の目安》

警戒レベル5：災害が発生しているか切迫して「すでに安全な避難ができず命が危険な状況」。すぐに命を守るための最善の行動（外に出るのが危険な場合、自宅の階上であつ崖側等から遠い部屋に避難）をとる。

警戒レベル4：危険な場所から全員避難（4までに避難する）。自治体からの避難勧告の発令に留意し、避難指示が発令されていなくても、危険度分布や河川の水位情報等を用いて自ら避難の判断をする。

警戒レベル3：災害が想定されている区域等では、自治体からの避難準備・高齢者等避難開始の発令に留意するとともに、危険な場所から高齢者等（障害者、幼児等）は自ら避難の判断（避難開始等）をする。

警戒レベル2：ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認する。同時に非常持ち出し袋や懐中電灯等の確認準備をする。

警戒レベル1：最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高める。積極的に気象情報や交通機関運行情報等を収集し災害をイメージする。

### 住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約 10 年

住宅用火災警報器は、一般的に電池式です。火災を感知するために常に作動しており、その電池の寿命の目安は約 10 年。

住宅用火災警報器が適切に機能するには維持管理が重要です。

「いざ」というときに住宅用火災警報器が適切に作動するよう、火災予防運動の時期などに、定期的に作動確認を行い、適切に交換を行うよう習慣づけましょう。2006 年 6 月 1 日から設置が義務化され早 15 年が経ちます。今、点検！



定期的な作動確認

## 2021年度 要援護者宅への訪問結果

毎年行っている「要援護者」に防災VGメンバーが3月から5月に、担当者挨拶訪問をいたしました。結果は、下表のとおり訪問軒数は169軒、面談者155人(面談率73.8%)です。一軒当たりの要援護者数は1.2人です。訪問時に「よく来てくれた、心強い」と感謝されました。

今回の訪問では、事前に民生委員と地区リーダーが訪問した際に、申請の確認を丁寧に行った結果、“なんとなく不安なので”、とか、“勘違いしていた”等の理由で7名の辞退者がありました。結果、VGメンバー一人当たり3.0人となりました。

地区：VG人数		担当要援護者		確認結果			状況変化				
地区	人数	戸数	人数	会えた	会えず	合計	死亡	転居	転入	辞退	増減
第一	21	64	79	65	14	79	-3	0	0	-7	-10
第二	23	44	52	27	25	52	-1	0	0	0	-1
第三	24	61	79	63	16	79	0	0	0	1	1
合計	68	169	210	155	55	210	-4	0	0	-6	-10

※「辞退者」にプラス1名は、辞退者が1名あったものの2名が追加になり差し引き1名プラスとなった。

## 地震6弱以上の確率、横浜38%(横浜市庁舎の場所)

政府・地震調査委員会が、今後30年間の予測地図を公表(2020年度版)。地震調査委員会の平田委員長は全国どこでも「強い揺れ」の可能性があり、「備え」の徹底をしておく必要があると警戒を呼び掛けている。

政府・地震調査委員会は、今後30年間で震度6弱以上の揺れに見舞われる確率を示した全国地震振動予測値図の2020年版を公表した。

今回当委員会は活断層型地震についても地盤の固さや地形データを見直した。その結果、横浜市38%(前回82%)千葉市62%(同85%)など大幅に低下した形となったが、それは下記((注))の理由で、横浜市エリアが低下した訳ではなく、依然として神奈川は確率の高いエリアがほぼ全域を占め、強い揺れのリスクが改めて裏付けられた。

注)18年度版で82%だった横浜市は確率が大きく低下したが、市庁舎が移転し、地盤が揺れなくなった影響が大きいと言う。揺れの増幅度合いを左右する地下構造のデータが、ボーリング調査を踏まえて改良されたことも反映されている。

(記事：神奈川新聞より抜粋)

## 防災VGメンバーアンケート結果

防災VGメンバーに要支援活動の仕組みや通信機器利用等の「状況確認アンケート」を3月に実施しました。要支援者の仕組みについては、現在のままでは維持できないという意見が58.3%、現状維持が41.7%でした。防災VGメンバー数は69人(アンケート実施時点。5月15日現在68名)、平均年齢は74.9才で四捨五入すると後期高齢者の組織です。家庭防災員受講経験者21人(受講者率30.4%)でした。スキルチーム登録者数は、情報通信電気チーム12人、医療・介護チーム9人、防火チーム7人、食糧・物資チーム20人、資機材チーム7人、合計55人となっています。



### Q1. 現在の防災VGの「要援護者」の仕組みについてお聞きします

A1：ア.現在のままでもよい25人(41.7%) イ.現在のままでは維持できない(仕組みを変えるべき)35人(58.3%)

### Q2：Q1で「イ」と回答された方にお聞きします。変える内容を下記からお選びください

A2：ア.完全にブロック内(地域や向こう三軒両隣)でサポートする仕組みに変えるべき10人(13.5%) イ.ブロック内でサポートすることを基本とし、発災時はメンバーが担当の要援護者宅に駆け付け支援等を行う12人(16.2%) ウ.メンバーを増員しメンバー一人に要援護者一人(1人：1人)にして現在の仕組みを維持する15人(20.3%) エ.その他37人(50.0%)

### Q3：Q2で「ウ」と回答された方にお聞きします。増員の方法はどうしますか?

A3：ア.単独チラシ等で募集を行う3人(21.4%) イ.«関ヶ谷だより»や«防災だより»に募集広告を出す6人(42.9%) ウ.メンバーの知人友人を本人が勧誘する2人(14.3%) エ.メンバーより紹介を貰って役員が勧誘する3人(21.4%) オ.その他0人

### Q4:パソコン(PC)やスマホを使っのメールでのやり取りについてお聞きします

A4：ア.PC、スマホとも普通にできる28人(45.2%) イ.PC、スマホともやや不得手だができる13人(21.0%) ウ.PCだけでやっている12人(19.4%) エ.スマホだけでやっている5人(8.1%) オ.両方とも全くできない4人(6.5%) カ.PC、スマホとも保有していない0人

### Q5:携帯電話ですかスマホですか?

A5：ア.携帯電話9人(14.5%) イ.スマホ48人(77.4%) ウ.両方保有4人(6.5%) エ.両方保有していない1人(1.6%)

### Q6：スマホの方にお聞きします。LINE(ライン)を使っていますか?

A6：ア.普段から使っている35人(67.3%) イ.あまり使っていない6人(11.5%) ウ.全く使っていない(インストールしていない)11人(21.2%)

### Q7:スマホのショートメッセージ(携帯番号を使ったメール送受信)を使っていますか?

A7：ア.使っている38人(71.7%) イ.使っていない15人(28.3%) ウ.使いたいのので教えて欲しい0人

### Q8：ZoomやGoogle Meetなどでオンラインミーティング(飲み会等)などの経験は?

A8：ア.経験ある25人(41.0%) イ.経験ない36人(59.0%)  
↳ a.経験してみたい1人(5.3%) b.興味がある7人(36.8%) c.興味ない11人(57.9%)

## 防災VGによる要支援者への訪問活動からの連携プレー事例

第二地区担当 民生委員 乙川さよ子

ある防災VGメンバーの方の要支援者訪問報告を受け、民生委員として訪問して確認したところ、より詳しくお話を伺った方が良いと思われる方がおりました。早速、包括支援センターに報告。後日センター職員が訪問し、お話を聞き、結果、「要支援1」を申請することのはこびになりました。今は週1回ヘルパーが通い安心した様子です。

また、同様に情報を得たケースでは、介護認定を受けられる年齢に達してない方で、今のところ日々の生活は差し障りがないが、一人で出来たことが、出来なくなり困ることもあるとのこと。ふれあいの会の「ちょこっとサービス」の案内を渡しました。

民生委員は、普段の活動では気づけないような情報を頂いて、困りごとの相談を得た場合は、直ぐに包括支援センターと連携し中継役を担い、より良い生活が送れるよう支援の活動と、地域の方の支え、繋がりを大切に行動していきたいと心がけています。

